

平成20年2月8日

各位

会社名 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 田島 秀二
 (コード番号: 7707 大証ヘラクレス)
 問合せ先 取締役業務本部長 秋本 淳
 (TEL 047-303-4800 <http://www.pss.co.jp/>)

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成19年8月9日の決算発表時に公表した業績予想を、下記のとおり修正するとともに、特別損失の計上についてお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想

(1) 中間期連結業績予想の修正(平成19年7月1日~平成19年12月31日)(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	1,800	27	50	50	1,167円13銭
今回修正予想(B)	1,478	210	273	399	9,313円73銭
増減額(B-A)	322	183	223	349	-
増減率	17.9%	-	-	-	-
(参考)前中間期実績 平成18年12月期	1,694	128	133	164	3,848円11銭

(2) 通期連結業績予想の修正(平成19年7月1日~平成20年6月30日)(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,000	95	70	30	700円28銭
今回修正予想(B)	3,400	180	270	420	9,803円92銭
増減額(B-A)	600	275	340	450	-
増減率	15.0%	-	-	-	-
(参考)前期実績 平成19年6月期	3,698	57	65	143	3,357円11銭

2. 個別業績予想

(1) 中間期個別業績予想の修正(平成19年7月1日~平成19年12月31日)(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	1,400	22	30	30	700円28銭
今回修正予想(B)	1,088	196	263	565	13,188円61銭
増減額(B-A)	312	174	233	535	-
増減率	22.3%	-	-	-	-
(参考)前中間期末実績 平成18年12月期	1,343	146	154	354	8,269円45銭

(2) 通期個別業績予想の修正(平成19年7月1日~平成20年6月30日)(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	3,100	60	30	30	700円28銭
今回修正予想(B)	2,600	220	300	600	14,005円60銭
増減額(B-A)	500	280	330	630	-
増減率	16.1%	-	-	-	-
(参考)前期実績 平成19年6月期	2,964	68	91	300	7,027円66銭

3. 連結業績予想の修正理由

(1) 中間期連結業績予想の修正理由

当中間連結会計期間において、海外の特定得意先への輸出取引に対する売上計上基準について、船積基準から着荷基準に変更いたしました。従来は、海外の特定得意先との取引慣行により、船積みをもって売上計上していたものですが、所有権移転の時期につき、より客観性、確実性の高い方法へ変更を行ったものであります。この変更に伴い、従来と同一の基準によった場合と比較し、売上高は130百万円減少いたします。

また、一部のOEM先向けのDNA自動抽出装置につき、アップグレードが予定されていることから、現在販売中の旧タイプ装置の出荷が予想以上に低迷いたしました。いずれも当連結会計年度に関する一時的な要因と考えますが、これらのことを主要因として、売上高は1,478百万円の見通しとなりました。売上の減少に伴い、営業損失は210百万円となる見込みです。

近年、OEM先だけに頼るのではなく、自社ブランドによる各種製品の展開を図ってきましたが、そのために投資した在庫製品の内、長期化しているものに関し相応の評価減を行い、営業外損失として、製品評価損47百万円を計上いたします。この影響から、経常損失は273百万円の見通しとなりました。

また特別損失として、開発・製造設備などの固定資産の一部につき、その稼動状況を勘案し、減損損失73百万円を計上した他、現時点において販売見通しのない一部の製品については、備忘価格までの評価減を行い、製品評価損25百万円を計上いたしました。これらの影響から、中間(当期)純損失は399百万円となる見込みです。

(2) 通期連結業績予想の修正理由

上半期における、アップグレードに伴う一部 OEM 先への主力 DNA 自動抽出装置の低調な出荷状況は、下半期にも続く見通しであること、また売上の認識基準の変更による影響が残ることが予想されるため、通期における売上高の予想を 3,400 百万円へと修正いたします。経費削減努力は行うものの、売上高の減少により、営業利益の予想は 180 百万円の損失、経常利益は 270 百万円の損失、当期純利益は 420 百万円の損失へとそれぞれ修正いたします。

4. 個別業績予想の修正理由

連結業績予想の修正と同じ理由により、売上高の通期予想は 2,600 百万円、営業損失は 220 百万円、経常損失は 300 百万円となる見通しです。

また、米国子会社の株式評価損 194 百万円を計上することにより、当期純損失が 600 百万円に拡大する見通しとなりました。

5. 特別損失計上のお知らせ

(1) 連結決算における特別損失

固定資産売却損	1,510 千円
固定資産除却損	11,053 千円
製品評価損	25,835 千円
<u>減損損失</u>	<u>73,045 千円</u>
特別損失計	111,444 千円

(2) 個別決算における特別損失

固定資産除却	11,012 千円
関連会社株式評価損	194,866 千円
製品評価損	25,835 千円
<u>減損損失</u>	<u>73,045 千円</u>
特別損失計	304,759 千円

なお、今回の業績予想修正の経緯と今後の対応策については、このプレス・リリースと同時に発表される当社プレス・リリースをご参照いただきますよう、お願いいたします。

以 上